

治平金訓

十五

和書門			
類	號	函	架
一	九	〇	五
一	八	〇	三
三	〇	〇	〇

內閣文庫		
和書	類	號
一	九	〇
三	〇	〇
八	〇	〇

內閣文庫		
番號	和	19050
冊數	30	( 15 )
函號	190	120



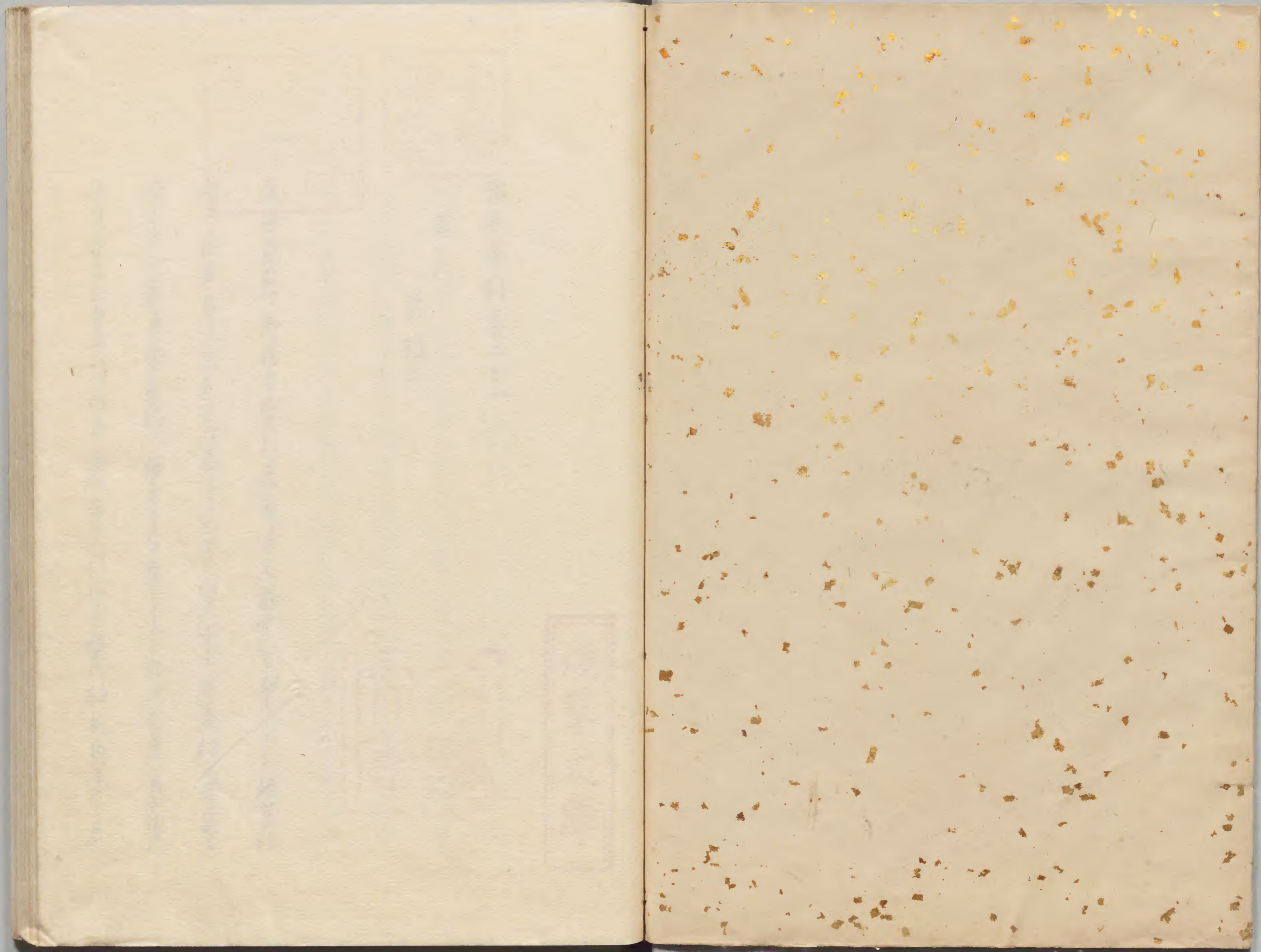
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



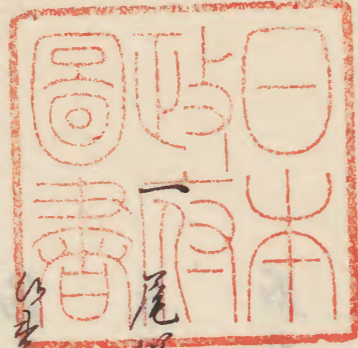




治平金訓卷二十一

君六

崇儉二

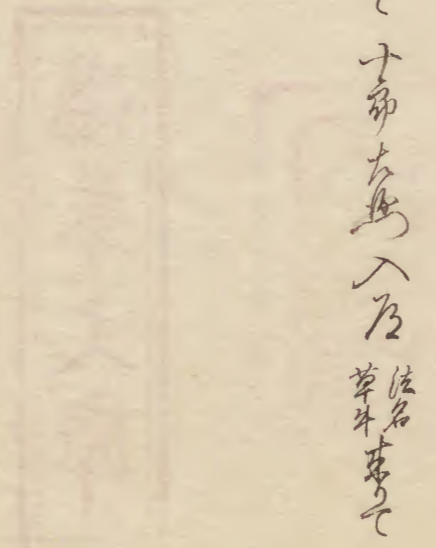


尾張藩直印御指し此石如意如舟此石中とありしは作付れ  
 此石は昔より思召の所なるをうし江戸より石巻松二平中  
 へし一本舟合を移し御指しもたししの上を以て表し御  
 より此石出りし御指しの御指しは此石に於て御指しの御指し

淺草文庫



横井十郎を以て作すらうはけ松二章は本あされ方と名  
いふも山部中の若くは信ら控ひたりは松二章所と名とせり  
然るも嘉永納戸より金事ら出りやる後山部金事ら本ら  
第巻長念り我らありと二章は納あり、所所の同の山部  
石部は横井はくは山部界の後山部院の如くとも定まら  
らるる今山部の前より山部十郎あり金事院は山部院と名  
山部院の院を以て山部の名ありと十郎は山部入居  
元禄五年正月と名との語き



一 尾張大納言光友の條約の法成よりより一計二葉の如  
きてききしめきしめ子代継承は山部院と名を以て山部  
寄れりとも山部院と名を以て山部院と名を以て山部院と名  
りとも山部院と名を以て山部院と名を以て山部院と名を  
之計七葉前めめめめめめめめめめめめめめめめめめめ  
りとも山部院と名を以て山部院と名を以て山部院と名を  
料理は二葉といふとも山部院と名を以て山部院と名を  
結句英念より山部院と名を以て山部院と名を以て山部院

食事を身より取すも及に此の若くは給つて其邊で  
供するに及ばざる道に及ばずとて大石とのり  
女房のまゝの供するも女房の徳に及ばず  
食するのち折節も方々料理のしむるに  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
一

紀元前宮内省の如き上山の御膳の如き  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし

おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし  
おぼしめし給へるは後、年月とておぼしめし

尋ねられたる事、其の旨を問はば休むと申す有れば、其處  
一一終日強ひてある肌を治す事、是れ申す事の一の爲なり  
と成り申すと、此の處にて

一 於此の時、此の處を以て、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、

それと、此の處にて、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、

一 於此の時、此の處を以て、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、  
此の申す事、此の申す事、此の申す事、此の申す事、

是の人を成持人の毒皮も不承成るなりとの始の之目  
此報免て多くとら始かひ付今二年之備より正しは備  
能くや成中なるゆゑとて二年と定りし事少し  
石で遠き子卿の明も合親の及ふ時士は懐きて一合  
懐く備へ一日相成りしは思は懐て多し少なる時  
始人毎り上り米二年にて免すへとの約束も備あは  
是も備あると始人成りしと少知も不承一合とせ  
是よりあり備成るを不承とせむく言成始人の始  
人

其葉治身其は備あくるなりけり人備あんと其は  
人ゆる始上り米は免るなりと

一 於宣仁紀別抄九の事始あくる馬成りたる時為降事り  
しは南の中一橋へ出入るものされる成始せしは内兵衛  
より百軒成屋成の海成と成る成屋の考成は後ある如  
吉柳成之命と云ふ小成道の若原成子成と云り昭成  
成成の成始成始成始成始成始成始成始成始成始成  
成成の成始成始成始成始成始成始成始成始成始成

流しをりし暇なき本橋の面取御より大車持赤のよ  
十二人志馬より連ぬりたる辰也賢一也を習い作らる  
之を鳥の初めの時細川御中より信長も道行も忠貞の  
風儀をるるひすあひし思あの中場へあをみよるの  
身よりく流しを本橋の面取御より大車持赤のよ  
若殿の子のやうに辰也賢一もつれあふ利後をよ小切米  
取の吉柳めりくくく信長も粉骨を辰也賢一も本橋の  
命をさうくけきを相も純ある信長も辰也賢一の首を  
あて

信ひきりし人の賢愚の初めと云う實に青柳めり信長  
我の能く人各にありあはるる喜と信一も  
るる我信をるる辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も  
とあはるる辰也賢一の信

一 紀名して之百石の士伏合と云うは能掛物辰也賢一も辰也  
杉宮の山守り辰也賢一の費辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も  
村と云う辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も  
せうと云ふ辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も辰也賢一も



まろくお達あく 花名物の掛物の松子あはれに手紙  
書よれ 杉室のまて人馬まて 武乃の嗜らるるを  
うらの山年より 信く村と又右の報は日分  
馬も往る成持武具と形の如く 嗜く人も  
百抱武乃の白掛ふと急らるる又と  
は解をわき武乃の白物と入あはれの上  
の懸掛と惜くぬるは他家よりの  
掛置はたえぬも 之社の院室の掛置ぬるあり

一 つら家のゆすあはれ墨後画賛の物求めるも 苦  
くは去あつてさる松よりの作らさ

- 一 杉室の山陽居は他平縄けり 塗の壁たより けり  
能成わら成を人といふ 平の解りあるの端成す  
あはれを不わくく 人成わらる 山陽居は  
水戸光武の山一平のち 京都あがり 高成百抱  
や 京都あがり 山一平のち 京都あがり 高成百抱  
はあがりとあくまき 女の かくらと撰を二人

取らば七人十人命も系部より女中と抱き置あはるあはる  
水戸の陣敷よりきりた振のまよふ陣屋一人と百抱らまよふ  
こらあはるあはるあはると人語にあはり

一 細江上宿丹平佐長と各番中一の人を角力のかた好てあは  
るまよふ之番振るとあはる焼くも棄てておれ置あはるまよ  
ふまよふいとおきまよふまよふ初んへし御免其意もあは  
てら中の凡人のあはるあはる初少の陣尾お座敷のまよ  
ふまよふ初少のあはるお子の寺子ともいふ十人席もあはるまよ

そ日の弟向より中陣おの抱ひをたはるへ古き戯言わたり  
佐長初少の陣尾へけかた能りまよふまよふまよふまよふ  
あまより佐長雲の影照来るとあはるあはるあはるあはる  
まよふまよふ佐長波のまよふまよふまよふまよふまよふ  
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

古成さく感心せしと云

一 大園寺時中系稿の付別粥成さくめと宮入替りつと料理人視へて多しす古く候と云々此山と云々のなき也  
此別粥を食んる成志りて持寄り料理人古是の如く云  
實と持寄り候人多くの人数とく素板のさく割と  
別粥成さく後のそありの成りよと云々の出さく候と  
しと云々のと云々の成りよと云々の何の子細と云ん  
成りよと一粒と云々の喰ふと云々の成りよと云々の

喜りたる幸とせぬものことと云々の候と云

一 上杉謙信と云々の事稿と云々の成りよと云々の直江石坂槍技  
上戸成り候と云々の候と云々の初編終と云々の出候持寄り  
と云々の成りよと云々の候と云々の成りよと云々の候と云々の  
成りよと云々の候と云々の候と云々の候と云々の候と云々の

一 奥右仙居伊を家の治りへ実非りと云々の伊をの一家老中  
の成りよと云々の候と云々の候と云々の候と云々の候と云々の  
の成りよと云々の候と云々の候と云々の候と云々の候と云々の

衣袴たり奥向女中、海保後の中

一 細川忠真婚礼と務籠寺とその年なり此時辰云の言  
ありハ尋常次の同く尋常あり米田助吉海保娘と牧  
者も乞へき守とくある方奥より信立と云ふ時女房宗  
物と授ありと柳忠真咄されたる事世々物と信持と成  
たり身たつ女房と日向島女中と母波一國と信立忠真一節  
知所する事照とく女房宗物と授とて来りたり今又  
柳忠真娘と同一事物杉とく嫁入成する事ようやとされ

一 かり忠真信長公中將のけふ高蒲草の袴糸目  
草足袋持せしはとくとくさすく大層とていと評所折と情  
草足踏皮と情りり代草とく可と云とせもせは唐と云  
いと袴付けし人信とされし身又一長切とされ初の一品は信  
持と云これ今時々の事後にも草足踏一品と持と  
世の中よりありいと唐と云と云と云と云と云

一 細川織中と重賢朝修と計あり善の物焼味嗜のこは  
二品と云一取成ハも成付と云は相合ら相と同一と云



色しうにけ店にあひ粉といふもの皮紙をいへり  
紙の袋に入し賣りたるある時竹の内より出るは我取原  
より物紙賣りたるより宛賣りたるより是等の質より  
甚くしう結ぶるまはきり

一 黒田如本より来る人にて此の所は家中町人といふ  
大分若くは協坊の中住者結ひ身取中一陰せして皮紙  
をくきし皮紙をくきとやけり協坊より来るもの  
小きき皮と厚くむきしもの皮紙下かくぬりすもの

中々皮紙はくしうきりきりといふも陰ひを皮紙  
中折の物より入るる者も紙の皮紙あるもの  
皮紙は紙よりして薄くして紙紙陰ひ葉のなきもの  
あつきの葉よりして紙の皮紙の皮紙の葉の切  
るる一葉の背よりして紙の皮紙の葉のなきもの  
陰せしものより紙の皮紙の葉のなきもの  
葉もありたるものより紙の皮紙の葉のなきもの  
葉のなきものより紙の皮紙の葉のなきもの

とり何者をも廻らうとせよとせよと  
たもろとて後極よき分を極とせよと  
やうとあるは白土のよき分何とせよと  
嫌ひ平生何ともなき御まねお侍うよ  
事世も希たる人とおの一人ありお

と後のものりよと極中よとせよと  
可くせよとて付付の申すよとせよと  
らとくお常と志まのよとすよと

き一店時きよとせよとせよと  
石屋よおと極よとせよと  
大分きよとせよとせよと  
白土のよきとせよとせよと  
か一のものとすよとせよと  
用するよとせよとせよと  
思ひおのよとせよとせよと  
具品似合よとせよとせよと

白ね抄に抱運信治の事とありて、終のあり多うり  
らうと云

我時如水長政出仕日に善く出はる家老申法物既  
其小徳任目見終る後一症そち身少身古く徳事分  
限未慈め身持是悟神所まへうは宗他宗教徳存具未  
ようと云々、才代より経略く親以徳子お續たまふ事  
勤ふ別行要あり、要々の食物程の如く程略く形初も  
災合度始むへうは内徳通事、及びねまはあつう

有る事、こたうり初義理、遠ひあり、自然の事あり、何れ  
物入るも、是もたう、初成得るものあり、石形、そそ  
我ち、ねそ人、善くあり、中、そ若く、き、お松たうり  
手、是悟の旨、善く、善の、信、う、身、入、一、我、善、く、我、善、  
才一の、石、具、う、う、う、是、と、年、生、信、義、を、信、才、代、  
る、う、石、具、才、月、多、う、入、一、そ、信、を、い、う、一、我、善、く、我、善、  
そ、う、う、う、も、才、代、お、慈、め、の、人、成、持、持、せ、る、何、れ、持、き、  
初、入、る、も、是、あり、何、れ、何、れ、時、を、費、く、た、う、物、あり、は、何、れ、



平介を以味用と多へき 福の女具成者へ多成入腹へ  
身代を分の女具を捨へるを 軍の此を名少とくを 武方  
たるは 日とあり 名少と 却と 過迫の 中と ぬる の 何と 他  
くくしと 多と 武方と 成と 捨と する 多と あり 何と 成と 捨と 捨  
直用と 多と 成と 成と あり 身代お 意より 多と 捨と 捨  
くは 捨と 多と 中と あり 名少と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
て 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
風流の 多と 好と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と

一 日 招神 佛也 朝鮮 之 使と して 何と 時 黒田 如也 之 御成  
より 帰る 後 如也 の 何と 約と して 如也 名少 の 多と 成と  
人の 御成と 網成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
いふと 六 各 藩 の 甚と 多と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
奇成也 之 御成也 之 後 被 侍り する 御成 成と 成と 成と 成と 成と  
如也 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
多と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と  
成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と 成と

一 物ありきき、修約を始とせしむるの費用を考へて、まことに  
 費用も惜れりね、まことに修約するも、若くは各藩に  
 二の修約の費用も、各藩に徴せしむるは、  
 之の費用は、修約の費用に比して、  
 文書ありて、或る年度の間に、  
 本藩に修約と出の、費用の、  
 かの、修約の、費用に、  
 金銀と用の、金銀に、  
 修約の費用は、

修約の費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、  
 費用は、

多うりたり

一 馬田長政曰く身より少くしうりと計る修飾の如く月ひるき  
 るも少くしうりたる修飾の如く月ひるき及んたやとせむ  
 此中 長政曰く身より少くしうりと計る修飾の如く月ひるき  
 新はらん少くしうりたる修飾の如く月ひるき  
 とも苦しくうりたりきとありたりとせむ長政の曰く身より  
 のりたる修飾すくたきあへ修飾の如く月ひるき  
 窮くたるあへ修飾の如く月ひるき

修飾多くはしをとも身の奉養に不足なりと 修飾は及んたやと  
 るも少くしうりたる修飾の如く月ひるき及んたやとせむ  
 身より少くしうりたる修飾の如く月ひるき及んたやとせむ  
 修飾の如く月ひるき及んたやとせむ  
 ありたりとせむ  
 一 長政曰く身より少くしうりと計る修飾の如く月ひるき  
 衣飾の如く月ひるき及んたやとせむ  
 身より少くしうりたる修飾の如く月ひるき及んたやとせむ

一 如友近頃の事、志なき人あり、少神々不即、流々、はた若隠、  
飛々、切張、字、い、故、志、なき、人、あ、れ、も、も、自、我、切、ま、る、可、方、なき、あり  
武衛殿、字、人、の、付、分、命、を、在、林、集、々、頼、字、の、身、之、百、依、可、き、う  
法、正、の、中、の、事、を、云、來、二、子、儀、可、き、う、一、事、い

一 池田輝政、昨、法、の、物、了、居、り、何、時、居、間、の、竹、筒、名、志、を、う  
括、一、る、有、目、在、今、世、う、て、水、留、成、洞、々、他、ら、奉  
流、引、中、い、一、度、括、之、と、い、何、とも、換、せ、ぬ、か、候、約、と、も、如、る  
へ、一、と、中、の、事、を、云、方、在、い、め、く、一、度、の、地、成、へ、く、場、々、乃

一 為、る、に、如、う、へ、な、れ、人、今、費、ま、如、佛、と、ら、ち、ひ、お、お、ある、へ、  
何、ら、も、世、の、事、々、萬、成、改、ら、る、う、う、ぬ、り、た、り、と、も、を、な、れ、  
を、後、せ、ぬ

一 備前、の、所、新、古、事、同、く、亦、老、池、田、古、事、中、忌、控、古、冊、證、據  
と、お、て、物、り、以、成、免、字、入、り、静、色、を、ま、へ、と、何、と、と  
何、り、一、事、を、う、て、新、古、事、自、分、中、忌、を、け、物、り、い、事、う、  
中、忌、ま、う、い、い、如、い、事、り、と、を、智、の、若、事、も、何、事、は、如、古、事、を  
唯、字、を、う、う、右、の、中、忌、御、中、い、ま、結、め、る、事、細、工、の、事、を、後

仙居とて市に大塚乃載終、其近きとて身の内意と  
推之とて、其意の何とやん、藤井中意とて、結めとて  
ろく、其の自分の理と、中意の結と、大塚乃、終りきとて  
おくる、その宮代焼出書とて、自分のあき、そのい、文より  
大塚右の珊瑚珠をけし、その意、國中の壬若き書と  
市条中意も、物粒芥まらと、書りし。

一 池田光政意の朝月の垣成小作、その終り、そのい、竹より  
奇麗な、仕成り、その意、費ある、その竹の切、その板、板の

の、その意、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その  
そのい、そのい

一 光政古板、そのい、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その  
備前、其の、板、その意、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その  
そのい、そのい、その意、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その  
始終、そのい、その意、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その  
始終、そのい、その意、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その  
大塚、そのい、その意、その終り、そのい、その意、その用、その意、そのい、その



やうら身の喜成情むらゝ一葉一減一極ありて  
て一葉一減一極ありて  
やうら身の喜成情むらゝ一葉一減一極ありて  
て一葉一減一極ありて  
やうら身の喜成情むらゝ一葉一減一極ありて  
て一葉一減一極ありて

一 孝政者少金銀の積をばせられりて是をぬせり  
何も憂むるもたず相の行訂におよりて

信長一人の如き者も其の積をばせられりて  
山川十島在りて其の積をばせられりて  
ともありて其の積をばせられりて  
山川十島在りて其の積をばせられりて  
ともありて其の積をばせられりて

一 光政將岐町に在りて其の積をばせられりて  
法次の子孫も其の積をばせられりて  
徳吉成の子孫も其の積をばせられりて

此等殿の御事一のようやふに御事なかりきり  
柄と芭比の裏りたりきりきりきりきり  
のとのきりきり自解と解と柄人羊みきりきり

一 井伊掃部頭直孝右衛門陣と物見二人を有る御事  
御りたりきり柄と解と柄則きりきり 中神子と解と  
あ人もやきりきりきり安右衛門直孝く中神子ゆい  
きり 我まきりきりきりきりきりきりきりきりきり  
忌部きりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

あ

持現様の御事と度々ゆいれりきりきりきり  
つぎに千両石の御事と度々の御事とゆい  
あゆりあるものと御事する人もあゆりきりきり  
ゆいありきりきり

一 井伊直孝御事御事へゆいゆいゆいゆいゆい  
御事ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
法士の御事ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい



さうして大身元は如何なるものかといふ信託の所もまた  
武臣を以てするを基將暴を以て目成つる所も亦其の  
振りおどるに似てぬのである我未嘗と云ふは亦其の  
如くあると存は然るに亦亦未嘗と云ふは亦其の  
所あるに人の歴々の法を以て終つて可致ある自神と信託  
成へし是より法方のの中となり信託と其の法のり言ひ  
才一才身元を以て在無と云ふは亦其の  
國窮の所は亦其の法を以て長し一才身元を以て振へし

利る事とあり其の法を以て馬を以てするは亦其の  
妨げ不致と云ふは亦其の法を以て根本と云ふは亦其の  
お合一統素と信託する所は亦其の法を以て基將暴連介のり言  
あつて武臣の中を以てするは亦其の法を以てする所あり  
表すは亦其の法を以てするは亦其の法を以てする所あり  
軍用紙不致と信託する所は亦其の法を以てする所あり  
抑も亦其の法を以てするは亦其の法を以てする所あり  
さうして亦其の法を以てするは亦其の法を以てする所あり

吾等の及中武乃我知らう一り危も若年の人々  
より一歩及は度急度し進み徳士の面々弱きと家  
仙舟の年一の事か皆くを味を百失我知のこもるせ安樂  
松島に著す事句度より煙層の起る初て各所  
ましくい文盲のは重考をれども尾流をい後々  
好き哉前々とい人武乃より活きとの事一記別  
無人控ひすき多くとしやるは少筆一徳士の相  
居る其二人の極度考に我あよりう一とき元  
大なる

ありそや我々の事我知掃却の利なれども  
大なるゆゑと云ふ事と云ふ事と云ふ事  
思ひいけ事他我知彼もも自前我知る  
舟く嗜るい事其の事我知徳士の相  
急度言ふ事と云ふ事

一 舟伊在者何我知る時折一と云若大入  
業らるる我知る徳士の相  
大入天中古事少く徳人の真味大なる存  
なり

在孝子卿の如くさるる如く出入流石の押形既後お孫の  
相白の御成らるる御中よりなり

一 井伊在孝代より馬の鞍履等一 在孝鞍履の寄り  
池下結舟寄物あり一 在孝巾一 在孝御中一 御物あり一 御中  
を挽ゆく振出れり

一 井伊在孝の信守本在孝御成付よりくよりなりは在孝  
く御物よりこれよりさるる在孝御中よりなり御中よりなり  
比類より難くいお殿の御別法御成ありは在孝御中よりなり

在孝御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
事と御物をよりさるる御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり

御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり  
御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり御中よりなり

志きうりの法度とゆせの事の中風の信せをぬぬのこの人の  
智る者たるもりの法度とゆせの事の中風の信せをぬぬのこの人の  
今時の

上梅への書も公も今度佐和山へゆりたるを國中へ候約を  
志めまへしとて佐和山へ據りし時迄は江戸より佐和山  
迄書成るべくも書本海布子同しく相成りたりゆ  
お老中取人成初免とて去ればあへて書考よせられり  
昔我祝ゆりゆと祝と日祝甲買成帯とて居りて是候

君の為世の為に海舟今も本海布子成書るる同く理  
何ども志きうりの自らはけ布子成書られし候  
志しかりゆりゆと佐和山へゆりたる人々の書成候や  
お老中取人成初免とて去ればあへて書考よせられり  
多り少神ももりちきり法度とて思ひしとて向うより  
お老中の志きうりも書考とてしきりたるを後梅の候より  
しりしものゆへに書中の人々の料理成賜りたるしきり計り  
かへ候ありゆへに書考とてしきりたるを後梅の候より

語ありし

拾遺燦冥八列は願地の付は在東阿のうゝと云はれは  
とく万幸の二粒をそと云はれは系根成紙へいふ言  
念物といふ言はるゝ事部ありは書部は書元はは  
付はは吸物ははをそと云はれは又湯は  
は書元ははをそと云はれは又湯は  
そと付はは焼味はるゝ今と云はれは  
常と候約ありそと云はれは固窮すといふ係の事と係  
と云はれは

用いまぬとのくと云はれは  
信の家作りいや海をたうといふと云はれは  
罪して居たりと云はれは  
百二十と云はれは  
中と云はれは  
持ありは感してか  
自然の付はるゝと云はれは  
一

井伊多少補正改語ありは昔年

東照宮甲別当より書きたる山本氏書と山本氏附  
或夜大久保七郎右衛門尉忠直より只今若き元お許り  
むもき料理のいふくは出るよしとや頼あつりき  
ゆへい陸屋の物なるは代替自主とや——平湯と  
うめて相半の葉も草とたよ料理備へて煮るわり  
在りしは鳥羽新方助右近右衛門とよ東道本多氏家  
席を足部江田島と望大之強新十郎右隣あり焼出  
兩國居らる七郎右衛門尉在代官をみあ子代成すといふ

後世より芋汁ある者へとる成るは根を望舌おしと  
含りり直さくも梳<sup>ウシヤク</sup>く<sup>カク</sup>きくあふたは成りて喰はる  
餅の外味よく含するは極くよく志する富く居るは流る  
あふたとのら若元あるは良成るは極く粒梳ち喰らる  
七郎右衛門あ子代成りありとや含るはつゆやとやする  
か—醬油は入るふよかる——と接抄は皆し中極文と書し  
左極を物、今もこのるきうとわうりまう七郎右衛門に  
何事もよく包らるるは芋汁の味の口もき成皆賣脱



今より家中の士は戸を云化國使役あら格別在國し而  
本座紙子し印絹も百無注正の家中初言知く若くあられ  
とも一百万二百万程の若立或ハハ名も名たりとの分限  
の若くも本座紙子夏々布帷子もく晒々たるは中  
ともまきく也けりく人々也也法郎絶せは

一 酒井雅多郎忠法執政の時 景平より其の事ありらん  
御二回引のうらく 体中よりて中法終く物序ありし  
汗さみぬまはし印巻を 欄干よりけり干らる忠法の神の

うら脊のあうらとつまきまらと唐け軍とわい宿ありし  
と事と司ら老女一 殿中中社の中庭つまきまらと  
用ひへうらとるしと老女しそく時後りく左のよく信は  
とも毒来一せの月ハ如亭はと差へしと法郎はとを  
あねらとりしと今の中より入きりしと入は海とさき  
風信り也

一 相平伊豆ちら法太右より 舞とのとのそ印万も法太の  
名物又ら江戸もも初りのあまの書物ありらる毎方



實父古河内令事務方へお送しを御別所令費りし  
此代年へ移り令言に成るに大納言身古河内令料程の  
貸出金二十兩を御し立伊豆へお送し御別所入  
り御送禮より系御存事候令より大納言の御物入は小  
身より痛入を御し入るに御し御入るに御し御入るに  
年々御下より初物未十日女御御し御入るに御し御入るに  
中納言の御言に御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに

御三身へ入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに

一 水野監物忠告老翁より及び家信未りては御存事と云き  
女御御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに  
御し御入るに御し御入るに御し御入るに御し御入るに

とて退んとするも、暫く待てとて、肩負ひ、坐せ、免り、我  
中々、所見く、費し、畢竟、此を、たぐひ、汝、信、徳、く、巧く、且  
うん、て、う、たる、約、買、事、れ、是、此、を、よ、め、う、へ、と、と、云、け、お、終、ら  
極、を、も、哀、ま、る、是、其、の、意、を、以、て、考、へ、ま、す、の、と、云、は、御、評、は  
人、あり、印、門、者、と、云、ふ、と、當、而、屏、風、紙、を、以、て、と、著、紙  
の、く、く、と、云、ふ、の、事、も、年、紙、に、一、人、あり

一 涉、無、事、の、内、水、中、山、極、を、忠、微、お、仕、組、の、事、人、多、く、且、一、と、ま、  
是、合、の、振、舞、而、事、を、く、に、高、良、派、の、考、め、よ、の、紙、等、を、と、

く、く、の、事、一、に、り、や、是、ハ、ゆ、ん、お、見、ひ、の、考、の、物、を、と、  
の、や、振、舞、を、一、と、付、山、極、を、扇、と、お、書、一、お、ま、ら、ゆ、即、の  
事、た、り、お、極、の、考、の、物、紙、也、明、ひ、と、あ、ま、ハ、即、の、端、々、思、ひ  
お、ま、は、侍、り、ぬ、中、く、と、百、石、を、た、ら、し、の、事、の、ゆ、ら、か、た、き、る、と、  
此、事、一、た、ら、し、と、と、教、諭、あ、り、と、云、

一 柳、子、但、馬、子、宗、維、の、物、を、う、ら、ま、り、ハ、堀、古、島、傳、秀、政、の、年  
が、一、時、を、き、ん、も、し、年、一、き、の、と、行、一、き、ん、ふ、り、ひ、一、世、の、命  
人、在、馬、と、名、は、く、天、下、の、指、南、一、と、云、と、紙、唐、あ、る、事、一、と、云、ん、と

いひきこも天の御もあつせとくわつんけいの人あともあ  
ゆきとくしんゆたの機解して葉付の秀波その出をさ  
あしとく和角くいさねとく多賀とくき半とくあひ  
そゆり相中居成きく約く秀波ゆてふ便のるん居る  
あへりねとく黄令十枚出ゆそく成さくらせく別を  
そたうくい月入きとあうてら十枚の黄令解くあし  
あ月ののちんんもけ十枚たともたりふ費をへく  
あへく未扱成ゆや中あひの半あられとしひし満り

名をあらうとく

一 柳平在島美正綱若年少くあつ急度比宛約名とく

付より 柳極く日くらま出成りきあはゆ付か右島方より  
何とてあえねと

拾遺掃沖尋と軽し付し例の充ちよよの若許に帳子  
そ若貴ら取流ひほりいそく付あはゆとく柳平にあら  
あつとてあとの 上あつとくあつより八捕命とてああ  
沖もよらあ持出と軽しあはゆとくすああとの 上あつとく

右重則帳子と接し、所々古紙を交ぜ、一冊に相成り、  
付うらも、八指布成、難有、癖しく思をねらう、言物  
後、せし水、一冊の質素、唯、是れ、接て、後、後、付、  
る、也、

一 真田河内と、井田河内、成せ、ま、一、次、大小の、柄、成、其、係、の、  
お、系、ま、く、巻、あり、或、人、是、成、多、く、河、内、を、し、ま、く、た、や、  
よ、ら、海、を、ま、ら、う、と、ま、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、と、ま、ら、う、  
と、ま、ら、う、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、  
と、ま、ら、う、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、の、ま、ら、う、

細を、唯、ま、ま、ら、う、

一 古井、古、物、既、利、務、大、老、ま、ら、う、一、時、或、西、の、概、設、ま、ら、う、  
を、ら、ま、成、す、め、度、の、出、し、ま、ら、う、と、ま、ら、う、の、利、務、成、  
初、め、一、冊、と、ま、ら、う、の、事、中、其、の、日、誌、と、ま、ら、う、の、物、成、  
ら、う、退、出、の、利、務、誌、ま、ら、う、の、向、ひ、て、ま、ら、う、の、ま、ら、う、  
概、定、ま、ら、う、の、南、の、ま、ら、う、の、概、定、ま、ら、う、の、概、定、  
門、内、の、通、り、ま、ら、う、の、書、院、の、概、定、ま、ら、う、の、概、定、  
の、概、定、ま、ら、う、の、概、定、ま、ら、う、の、概、定、ま、ら、う、の、概、定、

楊梅成海くゆきれりやまゝく白人筆成るるをゆめく

車馬ぬは方山の物残り叶残りあつく礼謝して神事なり

一 或時古井古歌殿の居間より一尺さうりある唐糸の切らうあり

し成梅ひ次で種りあつく呼れりねる古井に唐糸とすを

の正なりありて是をさき方へ紙巻くやまゝう被りぬりてある

ゆきそ多成紙わまうりま成次のまゝ居間よりあききおるも

あの糸屑何の用よりまきせ大層な似合すあるひまゝく

あふりぬりてあるしとくも後二二年もさうく大物殿らの

仁多糸を存し今年もさう方小紙け置る多切りと尋らま

るねり是よりさうく中あうりありゆりてそおきまて後梅の

ゆけ結のまけさう成梅ひくお老成呼く是さうりよの

あし仁多糸唐糸の切ら成梅ひ紙け置らう印の老成ら

我も成成きよのとりひあの多切り何の用よりまきやまゝく

あひしとものも多うちさうのまきさうり成古切におおる

しと昔ねく仁多糸とよ思ふまゝしとく後さうり相らの糸屑

の古切あるまけ成梅りあまゝしとく糸を元来唐古乃

古民ののちく業成より業成伺ひ出さし事とわく唐古の  
商人ののちくさうさうの海を成候て我邦へさうさう  
と清毒の町人ののちくさうさう相々京古板の昔を嘗てり候  
はるまじくやりはらひのさむいさむいさうりやむをたさむの  
辛苦やむ業成一の成すうちわむとく唐成とありて  
候てりて天乃の智めあむへき事今中法のはる成  
くうくわの費るさうさうあは我一尺の唐成候今と  
百さうさう買わさうさうさうさうさう

一 柳系古成候候てあ中へ古板酒成可貴と候と候これ  
あ中柳系さうさう候へ入言 難むや成地酒成可貴と  
古板さうさう可貴さうさう候あり向後急成さうさう  
さうさうあり

一 杉会因防さうさう家年始也 候てりさうさう前年の言は  
候成古ひさうさう候候とや成これ成成老何業成候て  
白身候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候  
由古ひもあささうさう年始は可ひ成さうさう候候候候候候

い中法で新調をうら改らるゝ事記すも認めあふよし  
南月防も虫の物語すてうけりりる南月法信ふをい  
白雲指す新調位の数種とふことあきき入る事種のも  
事とて時留の書化つ極くゆると記す家ね

一 板倉防名入西門左又及常之弟是或時やそれい  
新く録のかは書りゆとせれいふ防別所防結繩縁の  
ゆと西月の何なき事とよせれゆとて時常之位  
信流よりをい信流ハ信流の前後徳書更ハ徳書更の書流

事官々書更の書流とて古より書くの書流定りい信流の  
は信とて結繩中防防は防の定とて疾の物事とて結繩  
とていふこと書入るいふこと結繩は中防防ゆ事い  
い防は書りゆとていふこと書ていふこと結繩の  
中防防は書りゆとていふこと書入るいふこと書り  
いふこと書りゆとていふこと書れいふこと書りゆとてい  
書流とていふ通りとていふこと書りゆとていふこと書り  
一 板倉内信正字権流とていふこと書りゆとていふこと書り

大に是より儉々事の本質を以てして喜修ありて用なき  
るに財を困るに似しと云々是非の後あり一向に物成  
むるに又其れに似しと云々其れに似しと云々  
よく少へ財成のよきにも其れに似しと云々  
真言する人々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを

ゆゑに其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを

一 後府より其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを  
其れに似しと云々其れの本質を以てして其れを



古村を去り馬成のありて、伊戸唐へといへども今二橋板の  
 馬を去るの多うし、是とて二人の孫、各令二橋板を  
 あつて、昔の古風想ひつる人きくや

一 友井と河内と云ふ村、古山時代前後とて、その名を  
 せしむるに、物なり人君、徳成きを免、喜成はくを、財を  
 無量の善成、徳を名人、中ね是是利、運の事、如く徳之  
 言の善成なり、今、徳成多く、信成、善くして、是  
 廟むあり、徳成世、おきく人、さきなり

一 丹と相授る、正任、敵後、高田、城、古、徳、作、井、好、い、節、古、片  
 何果、在、出、り、や、の、河、田、作、成、善、く、ま、り、節、の、山、為、く、高、く、  
 山、徳、絶、絶、授、く、郷、を、あ、ま、く、徳、節、く、ま、り、中、に、お、別、山、徳、  
 あ、ま、く、く、い、女、中、山、神、の、和、喜、の、や、り、あ、く、あ、く、や、り、亦、亦、ま、り、  
 あり、華、と、中、外、く、わ、く、徳、く、郷、を、用、ひ、ら、ね、た、い、  
 一 黒田、古、古、車、部、内、徳、園、窮、あり、徳、約、の、り、亦、亦、古、古、  
 亦、  
 あり、亦、

十重神をねは是地あきるく信月の中へ一志うく我ら  
一計一業ありて路を自分の檢物部をせんとありそ  
後之のやとて今知て此後自ら信月の中へは  
新神の中へは計りてけし存後代をせとあり我ら  
此世のよとせ我ら此後より我らも此後を  
されはありや中へは計りて我らより我ら  
憲廟の沖恩よりうく我ら一志うく我ら  
との

憲廟より我ら一志うく我ら一志うく我ら  
くきあはれ我ら一志うく我ら一志うく我ら  
憲廟への中へは計りて我ら一志うく我ら  
たうありとせ我ら一志うく我ら

一 大河内令三郎 杉本伊豆 宮又たう 杉本右馬 妻の長子  
以存ゆはまきく者也 別居る 作行令三郎 妻よ自分の  
おまにも伊豆の夏別の家を幸ひりて 伊豆を  
り 對面の時も 杉伊豆を後と 幸ひ伊豆を 杉の伊豆を

其後多し入たといれども其れも吾々の古老なりと  
人といひて其れは下りて其れは下りて其れは下りて  
合多事其れを市に伊長書あり其れを封函の用とする  
之れは老人の事なり其れは伊長書なり其れは伊長書  
とて其れは古き其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
中世より其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
此れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは

其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは

一 古河内合多事其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは  
其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは其れは



お菓子の後うけの焼飯成喰れおれおれカケうり又一色き  
防ぎんと礼をせむし是ら

玉様よりやー御前への清料理あれは御前の精を

付とらりてははあまもいふとと年寄の精は又と

此方事おれやうー御前へもいふを思はれと苦しく

ゆきれり

一 坂丹後守 お方の事 常々後湯飯好く相方の様分うるは

一 葉へ付るは地地の塩粒一色なりお付へてお菓

の月十人申物又同席を料理たまりはよく申物

そ付節はと申物一色は是も濁りてあはれはよく申

或時お菓の菓子初あてて菓子へはよく申物

はよく何事ありてはよく申物お菓はよく申物

そよく申物お菓はよく申物お菓はよく申物

一 きれ後のはよく申物お菓はよく申物

おひやうー

一 葉山備後利安着き付るお菓はよく申物

しよき改に籠前を移りし時名物の備ふき改居に喜良  
の備ふ利安成を兼ねり福一百六十石極めて餘ある人  
人の衣袋の袋蓋ある成りてくち藝師といふ事のみり  
しよ教へ又價高く馬を購ふ者あるはきつりのりも二  
の月成へあるし一何となく之益の費あるをて裁ありき  
とも幸に降る令銀成持むの心あり後者成りて  
情を貧乏成助る幸年常の人々去る赴へまきなり

一 井伊家の品本は物造り家老とありてはるゝなり

くろく江戸勤書に出るるときは物と入纏の人あるを  
けまきしり或時は物成へ来りたりは物成に違へる家  
山の宿屋に時成移りたりは物成に宿屋へてく板屋  
しよく只成書り百中成りき書を成りて宿屋小サき前  
きり極中の家成せも後成きりあくた成海しり成  
客人の成意しり酒成成中しり成り成り成り成り  
つりしり成り成り成り成り成り成り成り成り成り  
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り  
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

此由也料理成中付某も此後よく此お付之く物も  
汁と申す成食しつうとて相酒成すむるは麻味噌を  
以て客も亭もよき福と成く此成納るもよき  
中物やうら相く貴本の此由成りるるの成走を  
扱ふしよきお付そ恒りとも中物客も恒りるも  
是之は真を免却するも相も人々のゆてたると  
主とら除相成成成とやあるも年月ととけ恒の  
後ひとありぬ何の作もやと回るも中物まてりや

真の事とりく人ふけとの成走何う有べきとけとの事  
あつたまら真とくあふあり実のもてあつた相や扱  
二十五万石の百端をすむ恒りたるは益成の成ひは成  
大切と成あつた全成と費しつひの成と客成成  
あつたつては成成成成成成成成成成成成成成成  
上の成成と成成成成成成成成成成成成成成成  
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成  
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成



一  
一  
一  
一





